

都道府県・指定都市番号	64	都道府県・指定都市名	広島市	研究課題番号・校種名	1 中学校
				教科名	技術・家庭（家庭分野）
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>○ 各内容において育成を目指す資質・能力を明確にし、これからの生活を展望して課題を解決する力やより良い生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画、指導方法及び学習評価の研究。</p> <p>(エ)内容「B衣食住の生活」における住生活の指導計画、(6)及び(7)衣食住の生活についての課題と実践に関する指導方法と学習評価の研究</p>				
ふりがな 学校名（生徒数）	ひろしましりつせのがわちゅうがっこう 広島市立瀬野川中学校（438名）				
所在地（電話番号）	〒739-0321 広島県広島市安芸区中野四丁目24番1号 電話(082)893-1265				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	www/senogawa-j.edu.hiroshima.jp				
研究のキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・「住生活」における小・中学校5年間で育む資質・能力を明確にした題材の指導計画 ・問題解決的な学習の過程に沿った学習方法 ・「主体的に学習に取り組む態度」及び「思考・判断・表現」の観点における学習評価 				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前アンケートにより、住生活における問題を把握し、指導に生かすとともに、事後のアンケートにより生徒の変容を見取ることができた。 ○ 小学校の学習内容との系統性や他教科等との関連を明確にした中学校3年間の全体指導計画と、「住生活」における小・中学校5年間で育む資質・能力を明確にした題材の指導計画を作成した。 ○ 新学習指導要領解説技術・家庭編に示されている問題解決的な学習の過程に沿った学習方法を工夫した。 ○ 「パフォーマンス課題」を位置付け、「主体的に学習に取り組む態度」及び「思考・判断・表現」の観点における学習評価を工夫した。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

生活を工夫し創造する資質・能力を育むための小中5年間の系統的な指導と評価に関する研究～「住生活」の指導における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をとおして～

(2) 研究主題設定の理由

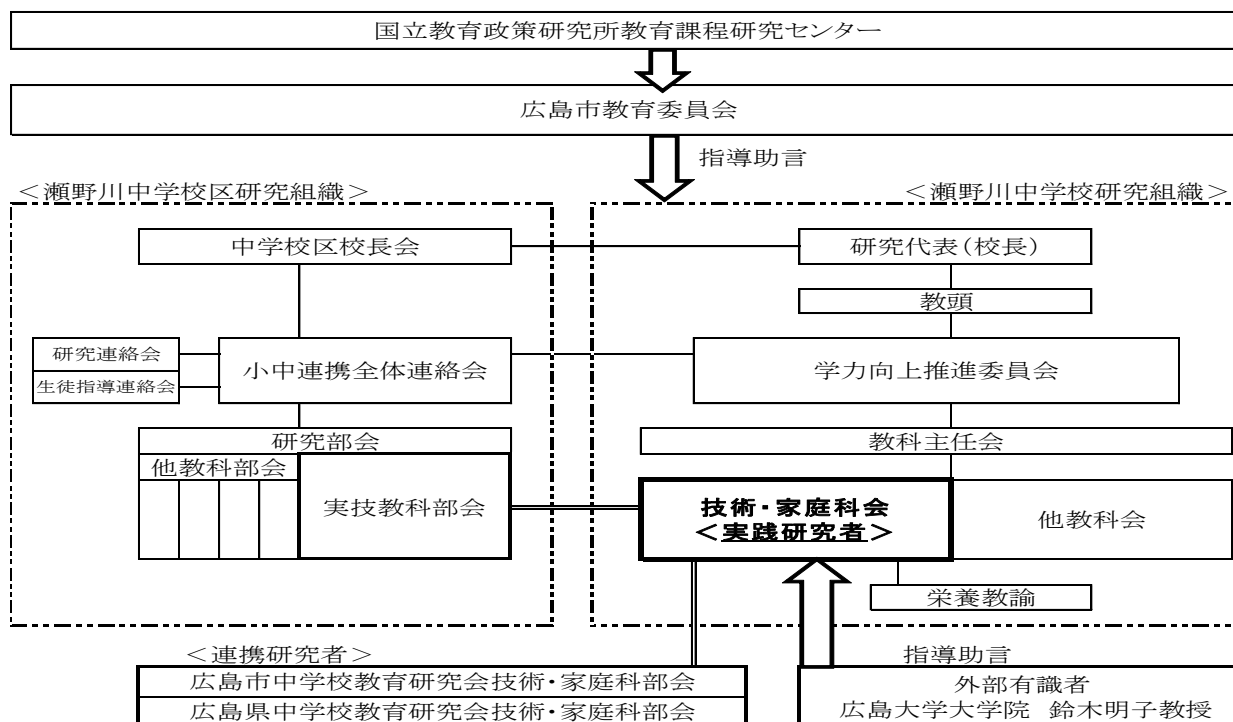
平成29年告示中学校学習指導要領では、生活を工夫し創造する資質・能力を育むためには、生徒が自分の生活を見つめ、課題を見だし、学んだ知識及び技能を活用して、課題を解決する「学びの過程」を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の必要性が示された。また、内容「B衣食住の生活」の「(6)住居の機能と安全な住まい方」において「自然災害に備えた住空間の整え方」についても扱うことが明記された。

平成30年7月に起きた西日本豪雨災害では本中学校区も被災し、生徒は土砂災害の状態や救助の様子等も目の当たりにした。このことから、生徒が身近な自分の体験から「災害に備えた

住まい方」について主体的に考え、家族や地域とともに、工夫や実践ができる力を育めたいと考える。

そこで、本研究では新学習指導要領の方向性を踏まえ、3年間で育む資質・能力を明確にしつつ、5年間を見通した指導計画を工夫する。その際、小中の系統性や他教科等との関連についても検討する。また、「学びの過程」を重視し、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生活を工夫し創造する資質・能力を育みたいと考え主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

令和元年度	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校1年生を対象に、「住生活」に関するアンケートを実施し分析 ・ 中学校3年間を見通した指導計画の作成 ・ 育む資質・能力の明確化と「生活の課題と実践」の効果的な位置付けの検討 ・ 小中連携研究部会で5年間を見通した指導計画の検討 ・ 学習評価の検討
	4月～8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践 中学校1年生 内容「B衣食住の生活」題材「安全な住まい方について考えよう」
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業の実践：モデル家族の自然災害に備えるための行動マニュアルから、各家庭の自然災害に備えるための行動マニュアルの工夫を考える ・ 資質・能力（思考・判断・表現）を測る質問紙の検討
	10月～11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生活の課題と実践」の課題設定の検討
	11月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次の研究の成果と課題整理 ・ 事後アンケートの実施と分析 ・ 研究報告作成
	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究協議会での研究成果と課題の報告 ・ 次年度の研究計画立案

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 育む資質・能力の明確化と小・中学校5年間の学習内容や他教科等との系統性を踏まえた中学校3年間を見通した全体的な指導計画の工夫
 - ア 住生活の小・中学校5年間の指導内容の洗い出しと題材配列の工夫
 - イ 小・中学校5年間の学習内容や他教科等との系統性を踏まえた中学校3年間を見通した全体的な指導計画の作成
 - ウ 「生活の課題と実践」の効果的な位置付け検討
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 - ア 生活の営みに係る見方・考え方を働かせる授業の工夫
 - イ 「学習過程」を工夫した実生活と関連を図った問題解決的な学習
- ③ 生活を工夫し創造する資質・能力を育む評価の工夫
 - ア 「主体的に学習に取り組む態度」及び「思考・判断・表現」の観点における学習評価の工夫改善
 - イ 生活を工夫し創造する資質・能力を評価するために効果的なペーパーテストやワークシート等の工夫改善

(2) 具体的な研究活動

- ① 育む資質・能力の明確化と住生活の小・中学校5年間の系統性を踏まえた中学校3年間を見通した全体的な指導計画の工夫
 - ア 住生活の小・中学校5年間の指導内容の確認表を作成し、小学校の学習内容との系統性を踏まえた題材の指導計画を作成した。また、住まいが家庭生活の営みの基盤であると捉え、小学校での学習内容を踏まえながら3学年間の初めに配列することとした。
 - イ 小学校家庭で学習する各内容・各指導項目との接続や他教科等との関連が分かる中学校3年間の全体指導計画を作成した。小学校での学習を振り返りながら学習させたり、他教科等で学習したことと家庭科の学習のつながりを意識させたりした。
 - ウ 「生活の課題と実践」を3年間で、第一学年の住生活の内容の後と第三学年の終了時に位置付けた。現在の生活からこれからの生活、生涯を見通した生活という時間的な広がりをもって学習内容を捉えさせたいと考え、第一学年では主に現在の住生活に重点を置いた課題とし、第三学年では将来を見通して、幼児や高齢者などの家族が安全で快適に生活することを課題として設定した。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 - ア 生活を工夫し創造する能力を育むために、新学習指導要領解説技術・家庭編に示されている問題解決的な学習の過程に沿って学習を行った。具体的には、「生活の課題発見」では、過去の自然災害時における各家庭の行動の問題点を挙げ、安全な住まいに関する課題を発見する。「解決方法の検討と計画」では、住居の基本的な機能や家庭内の事故の要因と対策などの知識を身に付けたり、自然災害に備えるための住空間の整え方を知る。「課題解決に向けた実践活動」では、家族のことを考えて災害時の持ち出し用品の内容を考えたり、自然災害に備えて各家庭や地域の危険箇所を調べたり、災害時の避難経路や避難場所について調べたりする。また、モデル家族を設定し、家族の安全を考えた行動マニュアルを作成する「パフォーマンス課題」に取り組む。「実践活動の評価・改善」では、「パフォーマンス課題」について発表したり、相互に

意見を交換したりする。「家庭・地域での実践」では、「パフォーマンス課題」で気付いたことを生かして各家庭の行動マニュアルを考え家族でマニュアルについて話し合う実践活動を行うようにした。

③ 生活を工夫し創造する資質・能力を育む評価の工夫

ア 授業のなかで「パフォーマンス課題」を設定し、「主体的に学習に取り組む態度」及び「思考・判断・表現」の観点における学習評価について、「おおむね満足できる」評価と「十分に満足できる」評価を明確にした。

イ 広島県及び広島市中学校教育研究会技術・家庭科部会と連携して、住生活における生活を工夫し創造する資質・能力を評価するためのペーパーテストやワークシートについて検討中である。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

○ 事前アンケートにより、住生活における問題として、住まいへの関心はやや低く、昨年の土砂災害から考えさせられたことはあるものの、そのことについて課題意識をもって家族と話し合ったりすることができていなかったことを把握した。このことを指導に生かして指導した結果、事後アンケートでは次に示すように生徒の変容を見取ることができた。

【アンケート結果】「当てはまる」「とても当てはまる」の合計

アンケート内容	4月	11月
自分の住まいに関心がある	56%	90%
家族と災害について話している	35%	87%
住まいに関することで、これから知りたいことや調べてみたいことがある	47%	84%

○ 「住生活」における小・中学校5年間で育む資質能力を明確にした題材の指導計画を作成することで、小学校での指導内容の理解が深まり、中学校での指導に生かすことができた。

○ 新学習指導要領解説技術・家庭編に示されている問題解決的な学習の過程に沿った学習を実生活と関連付けて設定することで、住生活をより良くしようと工夫する実践的な態度の向上につながった。

○ 問題解決の過程の中に「パフォーマンス課題」を位置付けたことで、生徒同士が相互に意見を交換し、気付いたことを実生活に生かす工夫を考えるなど、思考の変容や深まりが見られ、「主体的に学習に取り組む態度」及び「思考・判断・表現」の観点における学習評価の手立てとなった。

● 生活の営みに係る見方・考え方を働かせる授業の工夫についての検討が必要である。

4 今後の取組

- ・ 住生活における小・中学校5年間の題材配列の工夫について具体的に示す。
- ・ 「生活の課題と実践」の効果的な位置付けについて再検討する。
- ・ 生活の営みに係る見方・考え方を働かせて課題解決に向けて思考を深める場面設定を明確にする。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」及び「思考・判断・表現」の観点における学習評価の実例を示す。
- ・ 生活を工夫し創造する資質・能力を評価するために効果的なペーパーテストやワークシート等を作成し実施する。